

第8回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 配管減肉分科会 議事録（案）

1. 日 時：2014 年 11 月 7 日（金）13 時 30 分～16 時 40 分
2. 場 所：日本機械学会 第3・4会議室
3. 出席者：井手（東電）、川端（関電）、近藤（MHPS）、増田（東京PT）、朝倉（東芝）、
大鹿（中電）、五代儀（火原協）、竹石（東北電力）、橋井（富士電機）
代理者：なし
欠席者：なし
オブザーバ：稲田（電中研）、東（富士電機）、今野（富士電機）、半澤（東北電力）、
舟瀬（関電）
事務局：原

4. 配布資料

- 8-1 配管減肉分科会前回議事録案
- 8-2 配管減肉分科会委員名簿
- 8-3 第 69 回火力専門委員会議事録（案）
- 8-4-1 第 70 回発電用設備規格委員会議事録（案）
- 8-4-2 第 71 回臨時発電用設備規格委員会議事録（案）
- 8-5 火力設備配管減肉管理技術規格（2009 年版）改訂案
- 8-6 放射線透過式配管肉厚測定装置について
- 8-7-1 審議履歴表
- 8-8-1 配管減肉管理に関する規格 改訂提案 本文
- 8-8-2 配管減肉管理に関する規格 改訂提案 参考資料

5. 議題

- （1）前回議事録確認 [資料 8-1]
前回議事録（案）について確認を行ない、議事録案は承認された。

- （2）分科会委員・役員の承認 [資料 8-2]
委員の新任・再任、退任はなし。

（3）報告事項

- （3-1）火力専門委員会報告 [資料 8-3]

第 69 回火力専門委員会の審議内容について、以下のとおり報告された。

- ・火力専門委員会委員・役員の推薦承認
- ・各分科会委員・役員の承認
- ・第 7 回配管減肉分科会報告・・・電気事業連合会からの配管減肉速度データに関する報告、放射線透過式配管減肉測定装置に関する審議状況、2009 年度版の審議状況について報告。
- ・発電設備技術検査協会の調査委員会（平成 26 年度発電用火力設備技術基準等国際化

調査)への委員派遣依頼について。

(3-2) 規格委員会報告

1) 第70回規格委員会報告

[資料8-4-1]

第70回規格委員会の審議内容のうち、火力に関連する内容が報告された。特記事項は以下のとおり。

- ・ 火力専門委員会委員・役員の承認
- ・ 火力専門委員会報告
- ・ 火力専門委員会関連の審議事項はなし

2) 第71回臨時規格委員会報告

[資料8-4-2]

第71回臨時規格委員会の議題である、原子力の設計・建設規格の誤記問題に関連して、誤記発生の経緯、誤記の概要、今後の対応策案などについて報告した。原子力規制委員会対応に関して火力専門委員会への影響はないが、規格原案のチェック&レビューシステムの改善、正誤表等の対ユーザー情報発信システムの改善、規格審議プロセスの改善については、規格委員会全体の課題として検討が進められることとなる。

(4) 審議事項

(4-1) 配管減肉管理に関する規格 (JSME S CA1-2005) の改訂について

[資料8-8-1,8-8-2]

原子力専門委員会配管減肉分科会の稲田主査より配管減肉管理に関する規格 (JSME S CA1-2005) の改定案及び意見対応案について説明があった。

- 12月19日 (金) までに規格本文改訂案及び技術的知見改訂案のレビュー実施し、別途、井手主査が送付する意見集約表にコメント記入し主査まで返信。(別途メールにて連絡する。) 次回分科会 (1月21日開催予定) にて、火力専門委員会への上申を決議する。
- 参考資料「配管減肉に関する技術的知見の現状」については、最新版を入手しCSキャビネットにアップロード後、主査が各委員に連絡するので、その資料をレビューする。

(4-2) 火力設備配管減肉管理技術規格 (2009年版) の改訂案

[資料8-5]

○ 追加の修正箇所のチェックを行った。

- ・ 検査記録 → 測定記録は、修正せず検査記録のままとする。測定だけではなく判定基準も記載されており試験の合否判断に使用するため。
- ・ 表1は、親規格が修正中であるので、親規格の改訂状況に合わせ修正する。
- ・ P26の図は、受像部に透過される像を適切な表示に修正する。
- ・ 全文にわたり読点は「カンマ」に統一する。
- ・ 解説5のJIS B 8223の年版は、1999のままとする。作成にあたって参照した規格を記載しているため。
- ・ P43の図・・・「超音波送信波」が2つあるので修正する。

○ 追加で、意見・修正点などがあれば、メールにて主査宛連絡する。

○ 本日の修正箇所は主査にて修正し、修正後の原稿を三役にて分担し、チェックを行う。

(4-3) 放射線透過式配管肉厚測定装置について

[資料 8-6]

富士電機（株）東氏から、放射線透過式配管肉厚測定装置の測定原理・測定方法に係る質問事項に対する回答や資料の変更点等を中心に、説明があった。

- 放射線透過式配管肉厚測定装置について、分科会として規格に取り込む方針で作業を進めることが全員一致で承認された。

＜条件＞規格への取り込みにあたっては、適用条件を明確化して規格に記載する。

- 放射線透過式配管肉厚測定装置に関する規格案を次回までに作成していただく。

- 意見など

- ・ 20mm x 20mm の面で測定し、測定値はその平均値であることを測定原理の中に記載する必要がある。
- ・ 保温は密度が小さいので誤差への寄与率が小さいのであれば、そのことが分かるようにしておく方が良い。
- ・ 屋外設置の配管で、保温が水分を含むと吸収係数が変わることを明確にするとともに、水分を含んだ保温の配管を測定する場合は、その都度、吸収係数を測定する必要があることを記載する必要がある。
- ・ 上記内容も踏まえ、測定条件及び範囲を整理し次回分科会までに一覧表にて取り纏め願いたい。

- 富士電機新規提案に関する書類の確認

- ・ 分科会新規提案に対する審議方針に従い本日配布した資料について次回分科会までに確認を行う。

【審議方針】

- (1) 学術論文や公開データ等により基本原理が明確化されていて、理論的根拠があることを確認すること。
- (2) 基本原理の有効性や実用性について、信頼できる実験や解析に基づいて評価していることを確認すること。
- (3) 実機等での実績がある場合には、その確認を行うこと。

6. 次回開催予定

日 時：2015 年 1 月 21 日（水）13 時 30 分～17 時 00 分

場 所：日本機械学会 第3・4会議室